

1995 年京大後期理 [3]

条件より $|p(-1)| = |a - b + c| \leq 1, |p(1)| = |a + b + c| \leq 1$ ——①

$b \geq 0$ より、 $p(1) - p(-1) = 2b \geq 0$ であり、 $-1 \leq p(-1) \leq p(1) \leq 1$ であるから

$2 \geq p(1) - p(-1) = 2b \geq 0 \quad \therefore 0 \leq b \leq 1$ ——②

$|p(0)| = |c| \leq 1$ より $\therefore -1 \leq c \leq 1$ ——③

$q(-1) = p(-1), q(1) = p(1)$ であるから、①より $\therefore |q(-1)| \leq 1, |q(1)| \leq 1$ ——④

$c = 0$ のとき、 $y = q(x)$ は直線であり、④より $-1 \leq x \leq 1$ において $|q(x)| \leq 1$ である。

$c > 0$ のとき $y = q(x) = c\left(x + \frac{b}{2c}\right)^2 + a - \frac{b^2}{4c}$ は、下に凸の放物線である。軸 $-\frac{b}{2c} \leq 0$ であるから

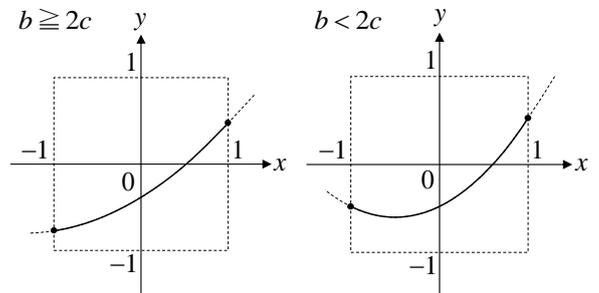
$-\frac{b}{2c} \leq -1, b \geq 2c$ のとき

④より $-1 \leq x \leq 1$ において $|q(x)| \leq 1$ である。

$-1 < -\frac{b}{2c} \leq 0, b < 2c$ のとき

$-1 \leq x \leq 1$ における $q(x)$ の最小値は $m = a - \frac{b^2}{4c}$ 。

$m > a - \frac{(2c)^2}{4c} = a - c$ であり、 $a \geq 0, 0 < c \leq 1$ より $\therefore m > -1$



$c < 0$ のとき $y = q(x) = c\left(x + \frac{b}{2c}\right)^2 + a - \frac{b^2}{4c}$ は、上に凸の放物線である。軸 $-\frac{b}{2c} \geq 0$ であるから

$-\frac{b}{2c} \geq 1, b \geq -2c$ のとき

④より $-1 \leq x \leq 1$ において $|q(x)| \leq 1$ である。

$1 > -\frac{b}{2c} \geq 0, b < -2c$ のとき

$-1 \leq x \leq 1$ における $q(x)$ の最大値は $M = a - \frac{b^2}{4c}$ 。

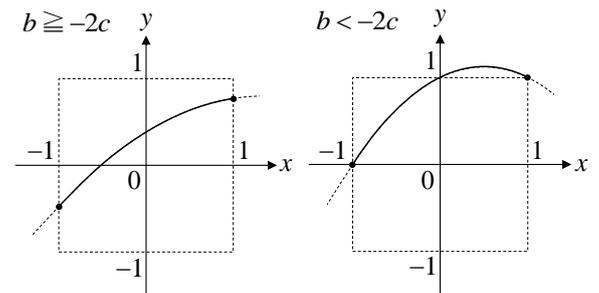
b, c を固定して考えると、 M が最大になるのは、 $q(1) = 1$ のとき。

このとき $a + b + c = 1$ で、 $M = 1 - b - c - \frac{b^2}{4c} = -\frac{1}{4c}(b + 2c)^2 + 1$

$0 \leq b < -2c$ より、 M は $b = 0$ のとき最大で、 $-1 \leq c < 0$ より $\therefore M \leq 1 - c \leq 2$

$b = 0, c = -1$ のとき $a = 2$ であるから、 $a \geq 0$ を満たす。

また、 $p(x) = 2x^2 - 1$ であり、 $-1 \leq x \leq 1$ において $|p(x)| \leq 1$ を確かに満たす。



以上により、 $-1 \leq x \leq 1$ において $|q(x)| \leq 2$ が示された。(証明終)